第18回 北海道 小・中・高生 短歌コンテスト 【講評】

歌人・(公財)北海道文学館監事　阿知良　光治

今回の応募者は、小学校の一年生から三年生部門の応募者は増えたのですが、他の部門の応募が減り、昨年より一，五六五名少ない五，三五六名でした。応募団体数は一一七校で、特別支援学校が三校あり学習塾からの応募もありました。第一次審査通過者は三二八名、第二次審査に残ったのは二四八名、そのうち入賞者は八八名でした。審査に当たる私たちは「今年も心に残る素晴しい作品に出合えますように」と期待しながら慎重に審査に当たりました。入選以上の作品は厳しい審査を通過した何(いず)れも優秀な作品です。これから応募する皆さんの参考になる作品だと思います。

今回も、学校生活の喜びや、クラブ活動での頑張りなど、一人一人の思いがこもった素晴らしい作品に出合うことが出来ました。

短歌は自分の気持ちを素直に表現することで、読む人に感動を与える文芸です。最終審査に残った作品はそれぞれの学年の発達段階にふさわしいもので、身の回りの生活の様子が素直にうたわれており好感が持てました。中でも特別賞に輝いた作品はそれぞれ工夫の跡が見られ独自の見方、考え方が際立っており素晴しい作品でした。

これからも、日々の暮しの中で見たことや感じたことを、皆さんなりの言葉で飾らずに表現した新鮮な作品に出合えることを期待しています。

入選された皆さん、おめでとうございます。

※掲載は部門別に学校名の五十音順。同学校内では学年順、同学年内では氏名の五十音順。
〔各作品の講評執筆〕　特別賞／優秀賞・佳作・入選（小学生の部）　阿知良光治
優秀賞・佳作・入選（中学生・高校生の部）　吉田　理恵

《特別賞　北海道教育委員会教育長賞》

気もちいいうさぎの耳はふっかふかたくさんなでて手もほっかほか

札幌市立発寒南小学校　3年　道下　愛理

【講評】ウサギは学校で飼っていて、休み時間に餌を与えようとしているのであろうか。ウサギの耳を撫でた時の感触を子供らしく優しく伝えている。「手もほっかほか」に実感があり、読んだ人の心も温かくしてくれる。

《特別賞　北海道立文学館賞》

太鼓の音紅白の幕らむね瓶夕陽を詰めて夏を飲み干す

北海道札幌東高等学校　1年　山本　果凛

【講評】夏祭りの様子を詩的に表現して巧みである。特に上の句の「太鼓の音」「紅白の幕」「らむね瓶」を畳みかけた下の句への移行が申し分ない。計算された句の構成が実に見事である。「らむね瓶」と平仮名にした意図も感じる。

《特別賞　北海道歌人会賞》

増していく日焼けの跡と思い出と仄かな不安中三の夏

札幌市立栄町中学校　3年　石井　絢菜

【講評】中学生最後の夏「日焼けの跡」と「思い出」を対比し詩的に表現されている。ぼんやりとした高校への不安を「仄(ほの)かな不安」と繊細なことばであらわし巧みである。結句の体言止めが生かされ引き締まった作品となっている。

《特別賞　北海道新聞社賞》

手をはなしボールに願う入ってと決まると気持ちいシュートのあの音

札幌市立八軒北小学校　6年　川嶋　紗英

【講評】バスケットの試合のひとこまである。自分がシュートした瞬間を端的にまとめ、「決まると気持ちい」と素直な表現が成功している。読者も一緒になってシュートが「スパッ」と決まった喜びを感じることができる作品である。

《優秀賞》

小学一～三年生の部

カナヘビやクワガタ・トカゲとおさんぽだたくさんできた夏のともだち

札幌市立西園小学校　2年　富樫　隆聖

【講評】夏休みに「カナヘビやクワガタ・トカゲ」を見つけた。作者は昆虫や小さな生き物に関心があり、自分の友達と表現している。その友達とお散歩しているという発想がユニークで誰もが共感できる作品になっている。

やわらかいバッタのおなかふれてみる元気いっぱい夏空はねる

北海道教育大学附属札幌小学校　3年　板垣　珠実

【講評】この作品もバッタに対する興味を自分に引き付けて表現しているところが良い。特にバッタのおなかに触れたという動作が、この作品を生き生きとしたものにしている。下の句の「元気いっぱい夏空はねる」に作者の思いが集中している。

小学四～六年生の部

夕焼けを背にした飛行機影になり轟音響かせ静かに降りる

北見市立中央小学校　6年　松江　凜太

【講評】上の句の「夕焼けを背にした飛行機」が印象的で、詩的である。こうした作品を「写生の歌」というが、作者の目線が飛行機に集中して「轟音響かせ静かに降りる」と最後までしっかり見届けようとする思いが伝わってくる。

夕やけ空鳥の大ぐん飛びながら赤いカーテンめくり始める

更別村立更別小学校　4年　森田　充陽

【講評】夕焼けの空を赤いカーテンと表現してユニークである。その赤いカーテンを鳥の大群がめくり始めるという発想が素晴らしい。この作品も「写生の歌」ではあるが作者の優れた感性がこの作品を印象深いものにしている。

中学生の部

暑い日々クーラーの部屋取り合った姉は高三私は中三

札幌市立平岡緑中学校　3年　橋本　侑芽

【講評】全国的に酷暑の夏、北海道も例外ではなかった。北海道ではクーラーがまだまだ普及していない中、受験生の自分と姉が勉強をするのに良い環境の部屋を取り合っているのである。現実に即した歌で頑張っている様子も窺(うかが)える。

夏服をクローゼットへ思い出と共に片づけ秋を迎える

札幌市立真駒内中学校　2年　石井　栞渚

【講評】季節の移り変わりを服を片付けることで表している。とても暑かった今夏、服を仕舞う時にその服を着た時の楽しい思い出も蘇(よみがえ)る。夏の余韻を感じさせる歌だ。そして静かに秋を受け入れているのだ。

高校生の部

突き刺さる夏の日差しとプレッシャーバッターの視線ベンチの声援

クラーク記念国際高等学校釧路キャンパス　3年　山副　舞桜

【講評】作者はピッチャー。マウンドに立ちながらもその場の臨場感と気持ちを過不足なく表現している。「突き刺さる」ものを並べての表現、映像として場面が目に浮かぶ点がとても良い。

わからずや母に放ったこの言葉忘れられない悲しげな顔

北海道恵庭北高等学校　3年　窪内　結羅

【講評】自分の気持ちを理解してもらえずに放った言葉か。親子だからこそ、時には傷つける言葉を吐いてしまうものだ。そして親子だからこそ、素直に謝ることもできない。そんなもどかしい胸の内が垣間見られる。

《佳　作》

小学一～三年生の部

たのしみはえほんをよんでちがうほんえらびにいくよワクワクするね

札幌市立北九条小学校　1年　津田　悠香

【講評】絵本好きな作者であろう。学校の図書室で絵本を読んでいるのだろうか、読み終わるとまた別の絵本を選ぶ楽しさを表現している。結句の「ワクワクするね」に素直な気持ちが表現され低学年らしい。

おもいではかぞくでいったすいぞくかんフワフワクラゲよつばのクローバー

札幌市立北九条小学校　1年　吉村　澪

【講評】家族で行った水族館の思い出を作品として、よく観察してきたことが伺える。下の句の「フワフワクラゲ」を四つ葉のクローバの様だと感じた、するどい観察眼が生きている。

なりきるぞジップラインでかっこよくウルトラマンだ背中に夕日

札幌市立篠路小学校　3年　福島　繋人

【講評】少年時代には誰でも憧(あこが)れたウルトラマンを題材に、自分に引き付けて表現している。「なりきるぞ」と初句で言い切っている点も良い。結句の「背中に夕日」が何とも格好いいではないか。

クワガタのようちゅうたくさんかいたいなかみさまねがいかなえてください

標津町立標津小学校　2年　栗栖　碧音

【講評】昆虫好きの作者である。普通は幼虫ではなく成虫を飼いたいだろうと思うが、幼虫を飼いたいというのである。クワガタが幼虫から成虫になるのを観察するのであろう。神様にまでお願いしているところが子供らしい。

小学四～六年生の部

すごいでしょ！わたしの町の空にさく新球場の打ち上げ花火

北広島市立東部小学校　4年　多門　花佳

【講評】北広島に今年できた新球場エスコンフィールドを題材とした作品。初句の「すごいでしょ！」が効いている。その新球場での打ち上げ花火を「空にさく」と表現しているのも印象的である。

化石ほりハンマー片手に穂別沢とうとう見つけたイノセラムスよ

札幌市立美しが丘緑小学校　6年　江口　紘生

【講評】「イノセラムス」は白亜紀に栄えた海生の二枚貝で殻が大きいとのこと。「化石ほり」の体験を感動的に作品としている。「ハンマー片手に」という表現も具体的で良い。

青森の夏を彩（いろど）る大ねぶた老いも若きも心じゃわめぐ

札幌市立伏古北小学校　5年　長谷川　碧

【講評】青森のねぶた祭りの実体験を「夏を彩る」と作者らしい表現があり、リアルに伝わってくる。結句の「じゃわめぐ」とその土地の方言を取り入れたところも面白い。

※じゃわめぐ…津軽弁で血が騒ぐ、ぞくぞくするという意

ぼんやりとしかいがゆらぐえんてんか冷んやりしみるアイスクリーム

札幌市立北都小学校　6年　若林　禮

【講評】夏の炎天下の様子を「しかいがゆらぐ」と高学年らしい表現で実感がある。その対比としてのアイスクリームの冷たさが読む者にも伝わってくる。

中学生の部

フクロウが木彫りアーチでいらっしゃい私も一緒にイランカラプテ

釧路市立共栄中学校　2年　松田陽菜子

【講評】阿寒湖アイヌコタンの入口アーチにある大きな木彫りのフクロウであろうと読んだ。訪ねた時にフクロウが歓迎をしてくれたようで、アイヌ語で「こんにちは」と返した。素直な表現に好感が持てる。

臥牛山はっきりくっきり見えてきたじいちゃんばあちゃんもうすぐ着くよ

札幌市立平岡緑中学校　1年　尾﨑　結菜

【講評】とても素直な詠いぶりである。「臥牛山」という具体的な固有名詞が効果をもたらしている。「はっきりくっきり」と似たような言葉を重ねてリズムも良い。

夏祭りハンディーファンを首に下げ揚げたてを待つチーズハットグ

札幌市立宮の丘中学校　2年　平口山莉子

【講評】令和の女子中学生らしい夏祭りの様子である。携帯扇風機を首に掛け、今流行りの韓国の屋台おやつ、チーズの衣揚げを待っている。具体的な描写が際立っている。「待つ」からこそ、歌が生き生きしている。

チョコミント口にふくんで思い出す花咲くように笑ったあなた

伊達市立伊達中学校　2年　加藤　綺菜

【講評】チョコミントは不思議な味だ。甘さの中にある清涼感の味わい。以前「あなた」はその感覚に驚いて笑ったのだろう。作者はチョコミントを口にする度に思い出すのだ。

高校生の部

過酷なり夏合宿のダッシュ練仲間の涙のフォローもできぬ

北星学園大学附属高等学校　1年　五十嵐美結

【講評】初句で「過酷なり」と言い切って、合宿の大変さを上手に表している。泣き出す仲間もいるけれど、自分のことで精一杯。だが、作者の優しさも充分に伝わってくる。

君が来たほのかに香るハナミズキ私の好きな匂いを連れて

北海道恵庭北高等学校　3年　尾形　美沙

【講評】ハナミズキのフレグランスを愛用している「君」がやって来たと読み解いた。春先に咲く花から瑞々しさを連想する。君と香りの両方が好きなのだ。場面が目に浮かぶ歌になった。

まったりと竿先見つめ当たりまつ今日も平和な高島の海

北海道小樽水産高等学校　2年　小野　陽斗

【講評】釣りの楽しさは時間を気にせずに「まったり」することでもあろう。そんな中で作者は平和を感じている。今の世界情勢をも慮（おもんぱか）っているのかもしれない。具体的な小樽の漁港「高島」が効果的である。

夏の午後日陰でめくる文庫本あつさも時も忘れて耽る

北海道札幌国際情報高等学校　1年　村上　和成

【講評】夢中で読んでいる本は何であろうか。情景がとても美しい歌だ。本を買い、家に帰るまでの時間ももどかしくて日陰で読み始めたとも思える。この場合、「耽（ふけ）る」が気持ちを良く表している。

《入　選》

小学一～三年生の部

白鳥がつらなる先に空の点はてなくつづくぼくらの銀河

旭川市立神楽岡小学校　3年　千田　憲星

【講評】白鳥が連なって空を飛んで行くその先を作者は見つめているのである。「はてなくつづくぼくらの銀河」は作者の発見なのであろうが、やや飛躍が感じられる。

スケボーのスピンのわざはかんたんさかっこいいからだいすきだ！

札幌市立北九条小学校　1年　サイイド ヒサン アスライミ

【講評】スケートボードを得意としている作者なのであろう。下の句の「かっこいいからだいすきだ！」と自分の想いを素直に言い切っているところも低学年らしくてよい。

はじめてのジェットコースターはやすぎるかぜがすごくて口がとじない

札幌市立新琴似小学校　2年　青山　楓

【講評】はじめてジェットコースターに乗った体験を子供らしく表現している。ジェットコースターの速さを「かぜがすごくて口がとじない」と具体的な体験を表現して臨場感が伝わってくる。

休まずにラジオたいそうともだちと元気に1・2たいようサンサン

札幌市立中沼小学校　2年　清水　悠翔

【講評】夏休みのラジオ体操を、友達と休まず続けたことが題材になっているが、下の句の「元気に1・2たいようサンサン」がリズミカルで楽しい表現になっている。

ヒュードン見上げる花火すてきだな小さな声でたまやといった

札幌市立日新小学校　3年　木島ほのり

【講評】花火大会の様子を表現するのに、初句に「ヒュードン」と音を持ってきたのが効果的であった。小さな声で「たまや」と言ったのも子供らしくて好感が持てる。

昼休み空いっぱいのうろこ雲明日は雨か…少しざんねん

札幌市立日新小学校　3年　今野　泰地

【講評】うろこ雲が発生すると、明日は雨というジンクスに対して、「少し残念」と結んでいるが、明日は作者にとって何か特別な日なのであろうか。それが分かるともっと良かった。

すごいんだ1mの大ジャンプ手をひらいたらバッタとんだよ

札幌市立白楊小学校　2年　駒井　翔太

【講評】バッタのジャンプ力に驚いたのである。初句の「すごいんだ」の感嘆の表現と「1mの大ジャンプ」と具体的なのが良い。自分の手からのジャンプを生き生きと伝えている。

どうやってふたりでテントたてようかかぜでババンテントがとんだ

札幌市立平岡中央小学校　1年　高井　蓮

【講評】キャンプ場なのであろう。お父さんとテントを立てているのかな。その時突然風が吹いて来て、テントを飛ばされたのである。その瞬間の「バババン」の音が効いている。

ねこみたいおとうと一才すぐだっこなくのはやめてみんなであそぼ

札幌市立伏古北小学校　3年　中野利里愛

【講評】抱っこをねだる一才の弟を「ねこみたい」と表現し、「なくのはやめてみんなであそぼ」と優しくなだめているところがお姉さんらしくて好感を持った。

ぼくのゆめこうこがくしゃになりたいなあこがれてるよインディジョーンズ

札幌市立緑丘小学校　2年　大神信次郎

【講評】考古学者になる夢を作品にしたものである。映画の主人公である考古学者で冒険家の「インディジョーンズ」の名前を示したのが具体的で良かった。

台風をかわして逃げる鬼ごっこフェリーがゆれる岡山の旅

札幌市立和光小学校　3年　田中　藤碁

【講評】家族で岡山への旅行中、台風が近づいてきたという。台風をかわしながらの旅行を鬼ごっこと表現したところが子供らしい。「フェリーがゆれる」と台風の近づきを具体的によんだのがよい。

かえりみちあかとオレンジチューリップこころにさいたやさしい気もち

標津町立標津小学校　2年　吉江　悠輝

【講評】学校からの帰り道なのであろうか。赤とオレンジのチューリップに出合い、優しい気持ちになったのである。「こころにさいた」が子供らしくてよい表現になっている。

キャンプ場きらきらひかるよるの森手もち花火が夏のおもいで

田中学園立命館慶祥小学校　1年　土田　理登

【講評】夏休みの思い出なのであろう。キャンプ場で手持ち花火をした時の周りの様子を「きらきらひかるよるの森」と印象深く表現しているところが評価された。

ふうりんの音色がひびくあつい夜すずしいきせつをまだかなと待つ

仁木町立仁木小学校　3年　桑島　葉子

【講評】今年の夏は熱帯夜が続いた。ふうりんの音色さえあつく感じたのである。下の句の「すずしいきせつをまだかなと待つ」と素直に表現することで気持ちが伝わってくる。

ドッボーンとイルカのあげる水しぶきあびてみたいなもっと近くで

北海道教育大学附属札幌小学校　3年　石塚　立夏

【講評】イルカがあげた水しぶきの音を「ドッボーン」と表現し、自分も近くでその水しぶきを浴びたいと思う子供らしさが良く出ている。その日は暑い日であったのであろうか。

もいわ山緑の色してこんもりとマヨネーズつけ食べたいな

北海道教育大学附属札幌小学校　3年　松田　莉瑚

【講評】「もいわ山」の緑をブロッコリーの緑にたとえたのであろうか。マヨネーズを付けて食べたいというユニークな発想が子供らしくて成功している。

小学四～六年生の部

見あげればシャワーのようにふりそそぐはじける音の打ち上げ花火

旭川市立高台小学校　6年　伊藤　美月

【講評】夜空に花火が上がり、降りそそぐ様子をシャワーにたとえたところが面白い。下の句の「はじける音」も具体的に表現したらもっと良い作品になったであろう。

ぷにぷにのほっぺゆるます一年生世話する私が癒やされてゆく

札幌市立北野台小学校　6年　猪師　めい

【講評】小学校では、六年生が一年生をお世話するのであろう。屈託のない一年生に自分も癒やされている。「ぷにぷにのほっぺゆるます」に作者の思いが集約されている。

サンダルで緑のうえを走ったら足につかまるやわらかな草

札幌市立栄北小学校　6年　石山　友理

【講評】サンダルを履いて草の上を走った感じを「足につかまるやわらかな草」と自分らしい表現で纏(まと)めたところが良かった。芝生の上を「緑のうえ」としたのも生きている。

エメラルドかがやく世界に身をまかせ魚と駆けるシュノーケリング

札幌市立新琴似小学校　4年　青山　湊

【講評】海の中の様子を「エメラルドかがやく世界」と捉えたのが新鮮である。「魚と駆ける」がシュノーケリングの魅力を十分に表現出来ている。

紙のうえ色と色が混ざりあうまるで自分の気持ちのように

札幌市立桑園小学校　5年　川幡　初

【講評】画用紙に絵の具で絵を描いているのであろう。絵の具を紙に置く度に別の色の絵の具と混ざり合う様子を自分に引き付けて表現しているところが詩的である。

そらをまうかぜにふかれてそらのたびいのちをつなぐたんぽぽのたび

札幌市立桑園小学校　5年　久保　寅彦

【講評】たんぽぽの綿毛が風に吹かれて飛んで行き、また別の地で芽生え花を咲かせる習性を「いのちをつなぐ」「たび」と捉えたところが高学年らしい深い洞察力を示している。

北海道河川の名前アイヌ語がかなり多くておぼえにくいな

札幌市立桑園小学校　5年　橋本　陽登

【講評】現在アイヌ語が見直され、アイヌ語を学ぼうとしている人も増えているときく。北海道の川の名がアイヌ語を起源としていることから覚えにくいと、ズバリ言い切っているところが素直で良い。

帰り道トンボがかたにとまったよ目と目があってトンボがにげたよ

札幌市立桑園小学校　5年　安井　心美

【講評】学校の帰りなのであろうか、トンボが肩に止まったのである。トンボと目が合ったとたん飛び立っていったのである。その出来事を素直に表現し子供らしい。

手を上げて追いかけてくる波の群れつかまりそうだ急いでにげろ

札幌市立八軒北小学校　4年　品野　由衣

【講評】波が迫ってくる様子を擬人化し「手を上げて追いかけてくる」と表現したところがユニークである。下の句の「つかまりそうだ急いでにげろ」が鬼ごっこを連想させて面白い。

七夕におりひめひこぼし会ってるねせめて電話をわたしてあげて

札幌市立発寒西小学校　5年　中山咲弥子

【講評】七夕には織姫と彦星が会うという言い伝えを題材にして、別れた後も交流できるように「電話をわたして」という発想がユニークである。最近であれば「スマホをわたして」がいいかもしれない。

見つけたりウニのおいしさホタテ貝江差の海にぼくはとりこだ

札幌市立ひばりが丘小学校　4年　寺林　伶

【講評】江差の海でウニやホタテを見付けた喜びを端的に表現している。結句の「ぼくはとりこだ」と気持ちを素直にぶつけているところも小学生らしくて良い。

たのしみは作家がくれる一軒家心の家を建てている時

札幌市立平岸高台小学校　6年　工藤　世成

【講評】高学年らしく、作家の小説を家にたとえているところが斬新である。読書をすることは心の家を建てるという発想が素晴らしい。表現力が光っている。

バスケットコートの中はにぎやかだドンドンキュキュキュと対話している

札幌市立本町小学校　6年　北島　論土

【講評】バスケットの試合を観戦しての作品で、選手が動く度にシューズが「ドンドンキュキュキュ」と音を出しているのを、お互いに対話しているととらえ非常にユニークな発想で面白い。

ピアノ舞台深呼吸して指を置く最初の一音余韻よ響け

札幌市立本町小学校　6年　宮内　哲平

【講評】ピアノの発表会の様子を作品化している。「深呼吸して指を置く」と丁寧に動作を表現し緊張感が伝わってくる。結句を「余韻よ響け」と言い切ったのも成功している。

にょきにょきと一番のっぽが先生で背比べするつくしの子達

登別市立青葉小学校　6年　及川さくら

【講評】春になりつくしが伸びてゆく様子を、つくしの背比べと捉えたところがこの作品の見どころである。一番背の高いつくしを先生として、他を子供達と表現したのも面白い。

中学生の部

朝遅く起きてチャリ漕ぎ祖母の家浅瓜ほおばり今夏が来た

旭川市立東光中学校　3年　小堀　瑠海

【講評】夏休みは遅くに起きて、程よい距離の祖母の家まで自転車で行き、祖母が庭で育てた浅瓜を頂くのが、作者の毎年の夏。「今夏が来た」に実感がある。祖母との良好な関係も微笑ましい。

登校中ご近所さんとすれちがい交わすあいさつ気持ち良い朝

岩見沢市立上幌向中学校　2年　舩岳　桐子

【講評】マンションでは隣に住む人を知らない昨今だが、作者の住む地域の温かさを感じる。挨拶をして気持ちの良い一日が始まるのだ。地域の人達に見守られて育ってきたに違いない。

そんなことあんなことまで知りたくないでも気になって見てしまうもの

岩見沢市立上幌向中学校　2年　水上　侑厘

【講評】誰もが通る青春時代の淡い思い。作者は今、そんな真っ只中にいる。具体的なことを示せられない程、気になることはたくさんあるのだろう。素直な詠い方に好感が持てる。

寂しくて立ち乗りでこぐ塾帰り夜露にぬれた自転車のサドル

江別市立大麻東中学校　2年　西村　虎流

【講評】雰囲気のある情景に惹かれた。塾で学習中に自転車のサドルは夜露に濡れたのか。寂しさを打ち消すように立ち乗りでスピードを出す、夜の中を。何故、寂しいのかはわからないがそれで良いと思った。

夜の森カムイの教え心留め全てに感謝しアイヌは生きる

釧路市立共栄中学校　2年　梶浦えあり

【講評】共栄中学校からは阿寒湖のナイトウォークの歌が多く寄せられた。校外学習を通して皆がアイヌの歴史や文化を学んだ。この歌は、アイヌの生き様をも感じ取った点が際立っていた。

阿寒湖のまあるいマリモゆらゆらと遊覧船で出会う宝石

釧路市立共栄中学校　2年　小縄　柚南

【講評】「まあるいマリモゆらゆらと」のリズムがとても良い。マリモの丸み、水底に漂う様子を上手く表現している。ワクワクしながら「宝石」をのぞき込む作者が想像できる。

夏休み我が家の庭で野菜取りなすびのへたがちくりとささる

札幌光星中学校　1年　吉田龍之介

【講評】夏休みの手伝いとして庭から様々な野菜と共になすびも収穫した。もぎたてなすびだからこそ、へたも生き生きとして刺す程なのだ。確かな実体験から生まれた歌だ。

夏の日に歴史感じるウポポイで響くムックリアイヌの文化

札幌市立厚別南中学校　2年　森元　亜美

【講評】ウポポイは二〇二〇年に白老にできたアイヌ文化の復興、創造、発展の拠点となるナショナルセンター。ムックリはアイヌ民族に伝わる竹製の楽器。アイヌの歴史、文化を学んだ夏の日は忘れられない日となった。

夏祭りいつもはなにも思わない品物たちがキラキラ見える

札幌市立柏中学校　2年　庄子和花乃

【講評】着眼点が良い歌だ。本当にその通りだ。童心に帰って風船や綿菓子が欲しくなる。安物のアクセサリーも射的の品々も煌(きら)めいて見える。お祭り効果と言ったところか。

捨てないよ古いぼうしは聞いていた友達の声覚えているはず

札幌市立中央中学校　1年　渋谷啓一郎

【講評】小学生時代に愛用していた帽子だろうか。帽子の擬人化が効果的。成長してサイズが合わなくなったとしても捨てがたい思い出の品だ。帽子を見るたびに友達を思い出すのだろう。

いにしえの石器が土器が目の前につながる命尊く光る

札幌市立平岡緑中学校　1年　松本　萌杏

【講評】古い時代の石器や土器を目の当たりにして、脈々と繋がってきた命にも思いを寄せている。自分の命も尊く、石器や土器のように光り輝いていると感じている。

ビンラムネきらきら光るたくさんの旅を楽しむ小さな泡が

札幌市立米里中学校　2年　水野　心結

【講評】「ビンラムネ」を良く観察してきれいな歌に仕上げた。歌の題材はどこにでもある。小さな泡が旅を楽しんでいると感じたのだろう。とても豊かな感性である。

猛暑日の道の向こうの水溜まりそこにあるけど届かぬ思い

苫小牧市立青翔中学校　2年　三浦　聖祐

【講評】不思議な歌だ。逃げ水のことを詠っているのか、水溜まりに届かぬ思いを託している。向こうにある水溜まり、思いを寄せる人も向こうにいるから思いは届かないのか。発想のユニークさが際立った。

ペン止まる進む秒針刻々と無情な「終わり」埋まらぬ空欄

北嶺中学校　2年　川村　煌

【講評】「止まる」と「進む」の対比が良い。一生懸命にテスト勉強をしたのに、どうしても答えが出なかった。更に勉強をしようと思う気持ちも伝わってくる。

散歩中キツネと出会う愛犬がビビリながらも興味津々

室蘭市立桜蘭中学校　2年　岩本　萌愛

【講評】愛犬も散歩中には野性味を帯びる。昆虫や鳥にも反応するだろう。ましてや、今、目の前にいるのはキツネだ。愛犬を良く観察して、微笑ましい歌となった。

首下に傾けながらとぼとぼとゆっくり歩く登校日かな

室蘭市立桜蘭中学校　2年　小畑　慶将

【講評】元気を出して登校してと声を掛けたくなる場面だが、こんな日もある。夏休み明け初日かもしれない。素直な気持ちを表現した点が良かった。詠嘆に挑戦している点も評価したい。

高校生の部

久しぶり岡山帰り背比べみんなを抜いて残るはじいちゃん

帯広北高等学校　1年　岡田　咲郁

【講評】岡山に祖父母が暮らしているようだ。「岡山訪ね」ではなく「岡山帰り」が歌を生き生きとさせている。成長して祖母やいとこの背を抜いたのか。残るは祖父のみ。帰る度に成長をしているのだろう。

巡る日々景色変わるも変わらない人のぬくもり心で感じ

帯広北高等学校　2年　川村　玲音

【講評】四季の移ろいは早いがそのような中でいつも自分を取り巻く人たちの温もりは変わらない。家族、友達、先生、先輩、自分に関わる多くの人達によって自分は生かされているのだ。

響かせる一音一音大切にみんなで行こう夢の舞台へ

帯広北高等学校　3年　石垣　美和

【講評】吹奏楽部の練習風景だろうか、夢の舞台に上がる寸前の気持ちか。みんなで心をひとつにしなければ良い演奏はできない。作者の祈りにも似た気持ちが平明な言葉と共に伝わる。

ペルセウス幾億年もの光の矢永遠（とわ）に継がれる葉月の夜空

札幌光星高等学校　1年　バント フレドリック

【講評】今年は七月から八月に見られたペルセウス座流星群。八月十三日が最大の見ごろだった。流星を観測しながら宇宙の壮大な時間を感じている。高尚な一首。「葉月」も効果的である。

夕焼けの空見上げれば鱗雲おもいだすのは乗船実習

北海道小樽水産高等学校　1年　細川　遥斗

【講評】作者は水産高校生。一年生ですでに「乗船実習」を終えたようだ。鱗雲から魚を連想して乗船実習に思いを馳せたのだろう。稀有（けう）な体験は大いに歌にしてほしいと思う。

さよならと別れの言葉告げたのに立ち止まっては振り返ってる

北海道小樽水産高等学校　1年　三浦かりん

【講評】日常のさりげない様子を素直に詠っている。別れがたいのは友達か、想いを寄せる人か。相手も振り返っているのではないだろうか。まだまだ話したいことがある、そんな気持ちが伝わる。

灼熱の空を見上げて振りぬけばナイスショットの掛け声響く

北海道小樽未来創造高等学校　1年　高山　修嘉

【講評】情景が目に浮かぶ。一瞬の情景を上手に捉えて過不足なく一首にまとめている。夏空の下、ゴルフをしているのだろう。上の句の表現がとても巧みで、すらすらと読める。

恋をした私は貴方に片想い今日も貴方は気づかないフリ

北海道小樽未来創造高等学校　2年　嶋屋　杏菜

【講評】初句から「恋をした」と言い切る潔さに好感が持てた。「貴方」が二度あり、あふれる思いが伝わる。微妙な関係性を良く表現している。明日には少しの進展があるかもしれない。そんな期待も膨らむ歌だ。

息を呑む浅黄に染まる大聖堂古き街並みシドニーの夕

北海道北広島高等学校　1年　伊達凛太郎

【講評】シドニーの大聖堂と言えば、セント・メアリー大聖堂。「浅黄に染まる」とは実際に目の当たりにしての実感だ。大聖堂、街並み、夕暮れ、作者の感動から生まれた一首だ。

あふれてくいろんな感情のりこえて大人になりだす十七の心

北海道釧路湖陵高等学校（定時制）　3年　塩崎　珠生

【講評】新しい法律で十八歳から成人。その一歩手前の十七歳を「大人になりだす」と表現したのが瑞々しい。心も変化して大人への階段を上って行くのだ。明るい未来にエールを送りたい。

日焼けした肌に良く合う真っ白なユニフォーム着て最後の夏へ

北海道倶知安農業高等学校　3年　新沼　天

【講評】作者は高校三年生。三年間を野球にかけてきた。「最後の夏」とは甲子園を目指す最後の夏ということだろう。白いユニフォームが汗と泥で真っ黒になるまで一試合ずつ戦ってゆくのだ。

暑すぎる真夏の温室汗流し二時間続けて花と向きあう

北海道倶知安農業高等学校　3年　守屋さくら

【講評】作者は農業高校生。猛暑の今夏、実習で温室に二時間もいるのだ。過酷な実習であるが、花に愛情をそそいで向き合う作者の前向きな気持ちが読み取れる。「花」からたくさんの種類を連想した。

バスの中ふと外見ると彼岸花真っ赤に染まる川ぞいの道

北海道福島商業高等学校　1年　髙橋　豊奈

【講評】北海道では自生で彼岸花は咲かないとされているが、旅先の風景だろうか。珍しい風景に感動しての一首かも知れない。牧歌的な風景の中にも「彼岸花」からもの悲しさを感じる。